

1 研究主題

深い学びにつながる「話し合う活動」を取り入れた算数科の授業づくり

2 主題設定の理由

児童がこれからの時代を生き抜くには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。

そのためには、これまでの優れた実践に見られる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。中央教育審議会では、「主体的・対話的で深い学び」を以下に示したように捉えている。

- ・「主体的な学び」・・・学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び。
- ・「対話的な学び」・・・子ども同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める学び。
- ・「深い学び」・・・習得・活用・探求の学びの過程の中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる学び。

算数科において、「深い学び」の鍵となるものは、「数学的な見方・考え方」である。その「数学的な見方・考え方」とは、「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考え、統合的・発展的に考えること」とされている。これからの算数科教育では、この「数学的な見方・考え方」を軸としながら、授業を改善していくことが必要である。

自分なりの根拠を基にした「話し合い活動」を充実させ、主体的に考える楽しさを味わわせていくことで、「数学的な見方・考え方」の育成を図っていきたい。

また、算数の授業を通して、「自分の考えが深まった」、「みんなで考えを創り上げた」といった成就感を味わわせていくことが大切である。このような体験を積み重ねていくことで、児童はより主体的に、自らの見方や考え方を働かせて思考・判断・表現していくものとする。

そこで、こうした深い学びにつながる「話し合う活動」の授業実践をとおして、教師が自らの授業力向上を図ることを目指し、本主題を設定した。

3 研究目標

自分の考えを持ち、根拠を基に筋道を立てて表現することのできる児童を育成するため、深い学びにつながる「話し合う活動」を取り入れた算数科の授業づくりについて研究する。

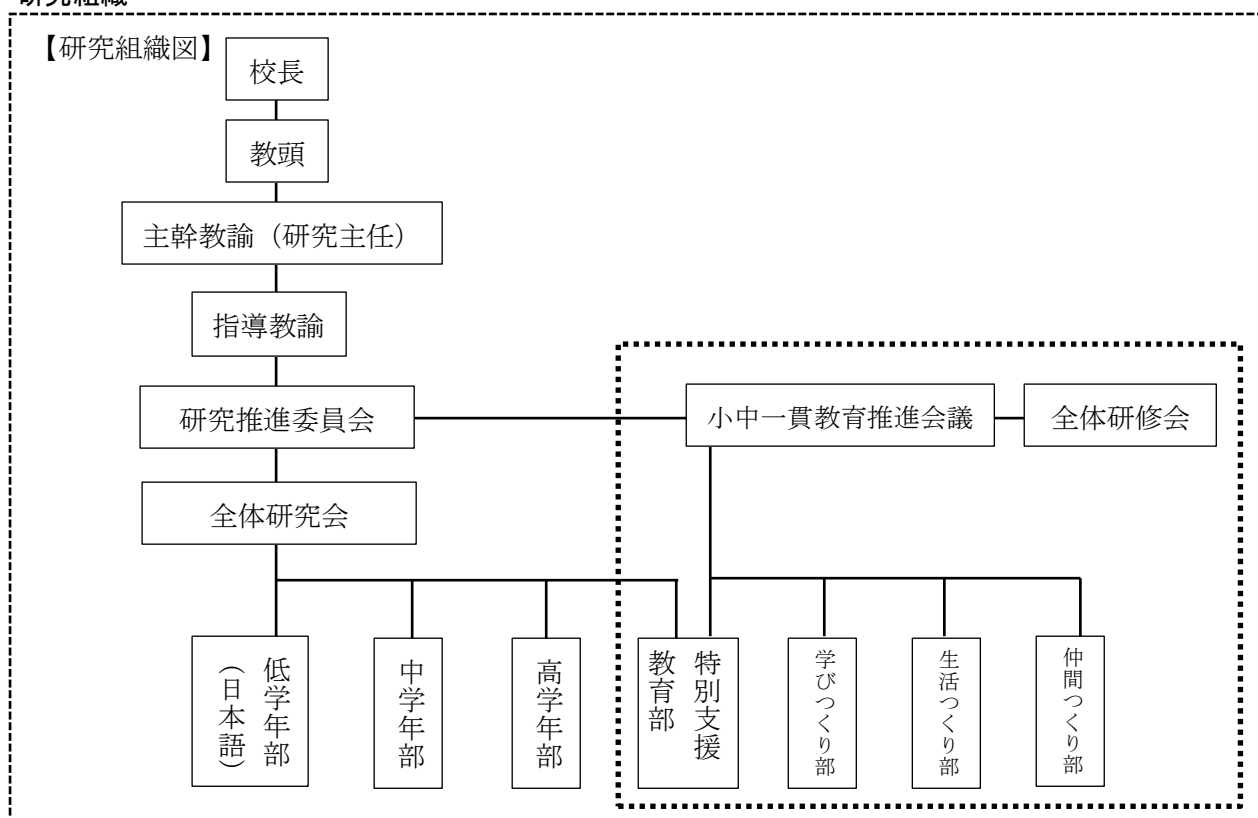
4 研究の視点

- (1) 児童の意欲を高める課題とその提示の仕方を工夫する。
 - ① 児童の「おもしろそう」「やってみたい」という気持ちを高めるために、課題やその提示の仕方を工夫する。
- (2) 思考力・表現力を高めるために、児童の考えを基にした「話し合う活動」を工夫する。
 - ① 児童が活発に話し合うことができるように、ペアや小集団での討論、バズなど話し合いの形態を工夫する。
 - ② 全体での話し合いでは、児童の言葉を拾い上げ、児童の言葉で問題解決がなされるように、教師の発問やコーディネートの仕方を工夫する。

5 研究の内容・方法

- (1) 研究推進委員会を中心に、全体研究会、学年部会を組織し、全職員の協力体制のもとに研究を進め、授業力向上を目指す。
- (2) 本校の教育課題を踏まえ、全体研究会で全職員共通理解のもと、研究を進める。
 - ① 全体研究会は、研究計画・研究内容等について、共通理解を図る場とする。
 - ② 教材研究や指導案作成等は、各学年部会で進めていくこととする。
- (3) 研究授業を行い、視点に沿った手立ての有効性を検証し、主題追求のための授業研究会を実施する。
 - ① 指導案を作成する研究授業を全員が行う。
 - ② 思考力・表現力に視点を充てた授業を行う。
 - ③ 各学年部で教材研究を深め、互いの授業を参観し合う。研究授業後は授業研究会を設け、指導法改善に生かすようにする。
 - ④ 全体研究授業を1学期に2回行う。(授業を公開しない学年が行い、上・下学年で研究会を行う)

6 研究組織



- (1) 研究推進委員会
校長，教頭，主幹教諭（研究主任），指導教諭，研究副主任，各学年部代表，特別支援教育部代表を研究推進委員とする。「小中一貫教育推進会議」と連携し、授業研究の推進に当たる。研究の企画・運営及び各部との連絡調整に当たる。
- (2) 全体研究会
研究に関する協議・連絡，研修，全体授業研究会を全員で行う。
- (3) 学年部研究会
学年部ごとに，研究視点に基づいた授業実践・検証を行う。

7 研究計画

学 期	計 画
1	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の方向性・研究組織の確認 ○研究内容と方法の周知 ○指導案の形式，板書の方法の周知 ○研究発表会での授業者の選出（算数科 2 本，教科日本語 1 本） ○指導案作成 ○授業実践 ○学年部授業研究会(日本語も含む) ○全体研究授業
夏季休業	<ul style="list-style-type: none"> ○研究紀要作成について説明 ○研究紀要原稿の検討・作成 ○講師を交えての指導案検討・作成（公開授業分） ○学習状況調査を利用した児童の学力・学習状況の分析
2	<ul style="list-style-type: none"> ○研究紀要の修正 ○授業実践 ○指導案の修正 ○学年部授業研究会（公開授業分） ○小中一貫教育研究発表会（11 月 15 日） ○研究のまとめについて提案 ○研究のまとめ作成・検討
3	<ul style="list-style-type: none"> ○研究のまとめ作成・検討 ○佐賀県学習状況調査の結果から学力・学習状況の変容の分析 ○本年度の成果と課題について ○来年度の方向性の決定

8 期待する研究の成果

- (1) 課題とその提示の仕方を工夫することで，進んで学習に取り組もうとする児童が増えるであろう。
- (2) 全体での話合いで，児童の言葉を拾い上げ，児童の言葉で問題解決がなされるように，教師が発問やコーディネートを工夫することで，児童同士がよりよい考えを練り上げ，根拠を基に筋道を立てて表現できるようになり，深い学びにつながるであろう。

《参考文献》

- ・「小学校学習指導要領解説 算数編」 文部科学省 2017.6
- ・『主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）（案）』 中央教育審議会 2017.5.9
- ・『教職研修 2016 年 9 月号 アクティブラーニングで目指す「対話的な学び」とは何か？』 文部科学視学官 田村 学 2016.9
- ・「新しい学習指導要領の考え方 - 中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ - 」 文部科学省